

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「ソーシャル・キャピタル創出とヘルスケアデータ一元化による地域包括ケアシステム研究拠点の形成」(KAGUYA プロジェクト)
平成 27 年度研究成果報告書

KAGUYA とは、「Keeping Active across Generations Uniting the Youth and the Aged」の略称で、「若者と高齢者が一丸となり、世代をこえて、住民が元気で生き活きとし続けられるまちづくりをめざす」という思いが込められている。また、本研究の対象地であり本学の所在地である広陵町内の竹取公園は、竹取物語で有名なかぐや姫誕生の地と言われていることから、本研究に「KAGUYA プロジェクト」という愛称がつけられることとなった。

1. 研究目標

ベースライン調査及び各サブプロジェクトの準備を実施することである。

- 1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究
- 2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発
- 3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成事業に対する有効性検証
- 4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果検証

2. 平成 27 年度研究計画

- 1) ヘルスケアデータ統合プラットフォーム構築に関する研究
 - ・すでに得られたデータを蓄積・突合できるような枠組みを広陵町と連携して形成する。
 - ・町民 5,000 名に健康、生活、ソーシャル・キャピタル等に関連するベースライン調査を郵送で 1 回実施する。
- 2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびそのアプリケーションの開発
 - ・先行研究から抽出・検討された簡便なタブレット用健康チェック、認知症チェック用アプリの試用開発を行う。
- 3) 健康啓発・予防医療推進・認知症予防のための住民リーダー人材育成
 - ・各種養成講座の企画、準備を行う。町内で公募し、小規模(50 人程度)の講座を年 6 回、3 箇所を実施する。
- 4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果
 - ・学生に対する現在の健康行動や住民支援の理解度、地域への意識等の事前評価を実施する。
 - ・文献レビューから教育効果が得られやすい研修内容・方法論を検討する。

3. 研究成果の概要

1) プラットフォーム構築、ベースライン調査

データを蓄積・突合のための仕組みとして、大学および広陵町に保有するデータのうち分析の対象となるデータを仮選定し、一元化のためのデータベース設計に着手した。

広陵町情報公開・個人情報保護審査会及び本学研究倫理委員会の承認を経て、2016年3月1日～18日にかけて、町内在住65歳以上高齢者全員(8,051人)を対象とした自記式アンケートによるベースライン調査を行った。内容は健康、生活、ソーシャル・キャピタル等に関連するものであった。ベースライン調査実施に伴う宛先データの受領時には、データ受領方法について定めたフロー、チェックリストを試験運用し、情報管理における有用性を確認した。

また、ベースライン調査およびヘルスケアデータプラットフォーム構築に関わる基盤整備、研究推進体制の確保のため、広陵町内に本プロジェクトに関する委員会を設置し、2016年度から運用されることが決定された。これにより、本プロジェクト研究者と町の担当者が幅広く協議する場ができ、町と大学が協働して推進する体制を整備することができた。

2) 健康・認知症の効率的なスクリーニング方法およびアプリケーション開発

・キックオフイベント「畿央大学シニアキャンパス」における認知症カフェ／ミニ講義・介護相談コーナー開催

看護医療学科の教員が認知症に関するミニ講義を行った後に、iPadを用いた認知症チェック(改訂長谷川式簡易知能スケール)と3本のモールを用いた「オレンジロバ」制作を行った。

認知症カフェのフィールド確保(コントロール群)および使用する機器(iPad)の準備を実施した。次年度に実施する認知症カフェの場を広陵町内に2か所確保した。

3) キックオフイベント「畿央大学シニアキャンパス」

① 2015年12月6日(日)、本プロジェクトのキックオフイベントとして「畿央大学シニアキャンパス～ロコモと認知症の意外な関係～」を本学において広陵町地域包括支援センターとの共催で行い、近隣地域のシニア世代約50名が参加した。内容は以下のとおりである。

・ロコモティブシンドローム予防ミニ講座／ロコモ度チェックコーナー

ロコモティブシンドロームに関する講座に続き、実際に身体を動かしながらロコモ度チェック(立ち上がりテスト、2ステップテスト、ロコモ25アンケート)を実施した。

・認知症カフェ／ミニ講義・介護相談コーナー

看護医療学科の教員が認知症に関するミニ講義を行った後に、iPadを用いた認知症チェック(改訂長谷川式簡易知能スケール)と3本のモールを用いた「オレンジロバ」制作を行った。

- ・KEEP お手軽運動教室

ロコモ・認知症の講座終了後、最後に介護予防リーダーKEEP による運動教室を行った。

KEEP (Koryo Elderly Encouragement Project) とは、広陵町地域包括支援センター及び畿央大学が連携して開催した「介護予防リーダー養成講座」を修了したボランティアグループの愛称である。

- ・広陵町×畿央大学 KAGUYA プロジェクトキックオフミーティング

畿央大学教員、TASK、KEEP、広陵町包括支援センター職員が一堂に会し、プロジェクトの趣旨を確認した。

TASK (Think, Action, Support for Health by Kio University) とは、理学療法士、看護師、管理栄養士、建築士、教員などを旨とする学生 100 名以上が在籍する、畿央大学の健康支援学生チームの愛称である。

4) 多専門学科で構成された学生チームへの教育効果

- ・健康支援学生チームの募集を行い、現在 5 学科 75 名の学生が登録されている。
- ・事前評価として学生へのインタビュー、文献レビューを行っているところである。
- ・教育プログラムの検討および実践を下記のように行った。

TASK 勉強会および地域実践活動の開催

- ・勉強会

2015/8/13 (木) 「サッとシステムを使った栄養チェック」

2015/9/29 (火) 「応急処置」

2015/10/28 (金) 「高齢者と若い人の色の見え方の違い」

2015/11/26 (木) 「小学校・幼稚園の子どもとのかかわり方と発達」

2015/12/18 (金) 「高齢者疑似体験」

2016/3/22 (火) 「認知症について、認知症カフェの意義と役割」

- ・地域実践活動

2015/9/27 (日) 「広陵町身体体力測定会」

2015/10/18 (日) 「畿央祭 ウェルカムキャンパス」

2015/12/6 (日) キックオフイベント「畿央大学シニアキャンパス」

2016/3/27 (日) 「広陵町身体体力測定会」

4. 今後の研究計画

- 1) 40-64 歳の壮年期におけるベースライン調査の実施、高齢者ベースライン調査の分析
 - ・壮年期ベースライン調査を実施し、高齢者調査とともに多角的に分析し、実態を把握

- ・医療費や介護保険費、新規要介護認定率、認知症者数等の把握、分析も同時に行い、広陵町と協力・連携し、地域における対処すべき課題を抽出

- ・調査結果について、GIS（地理情報システム）を用いてマッピングすることで、介入地域を選定

2) 健康・認知症アプリケーションの実用性の確認およびそれらを用いたパイロットスタディ

- ・介入地域に対する認知症カフェのプログラム内容の検討・立案(仮)、認知症の評価尺度の検討

3) 住民リーダー人材育成の継続拡大

- ・受講生への知識確認および健康・認知症等への認識の変化などの調査を実施

- ・認知症サポーターの公募・養成講座を3回、6箇所を実施

4) 学生チームによる小規模での実践活動

- ・住民リーダーとの連携を図り、地域への効果的な関わり方を検討する。

5) その他

- ・2015/6/18（木）付 文部科学省より採択通知

- ・2015/9/4（金）広陵町への採択報告会 @広陵町さわやかホール

広陵町長、副町長、教育長および部長級職員への採択報告およびプロジェクト概要を説明。町と大学連携していくことを確認した。

- ・2015/10/2（金）KAGUYA プロジェクト記者会見 @広陵町さわやかホール

広陵町と畿央大学の合同でプレスリリースを行い、奈良テレビ、奈良新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良日日新聞等が参加し、ニュース化・記事化された。

- ・2015/12/6（日）キックオフイベント「畿央大学シニアキャンパス」 @畿央大学

地域包括支援センターと共催。ロコモ予防、認知症カフェ、お手軽運動教室に約50名が参加。広陵町長、教育長も出席。

- ・プロジェクト広報および地域住民への周知活動（広陵町企画調整課連携）

プロジェクト紹介リーフレットを作成し、町内の公共施設に設置するとともに広陵町役場の全職員に配布した。広報誌上で記者会見、シニアキャンパス、ベースライン調査発送について告知を行った（11月、2月、3月）。あわせて10月にfacebook ページを立ち上げ、情報発信を開始した (<http://www.facebook.com/kaguyaproject/>)。

- ・学内教職員によるミーティング 15回

添付資料

1. KAGUYA プロジェクトリーフレット

2. 畿央大学シニアキャンパスチラシ

3. 65歳以上高齢者ベースライン調査 調査票

4. 介護予防リーダーリーフレット
5. 介護予防リーダーテキスト
6. 各種新聞記事
7. 大学オフィシャルサイト・公式ブログ記事

平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に本学が採択されました。

http://www.kio.ac.jp/topics_news/23493/

広陵町×畿央大学「KAGUYA プロジェクト」の記者会見を行いました。

http://www.kio.ac.jp/topics_news/25036/

12/6（日）「畿央大学シニアキャンパス～ロコモと認知症の意外な関係～」を開催します。

http://www.kio.ac.jp/topics_news/25575/

広陵町×畿央大学 KAGUYA プロジェクト「畿央大学シニアキャンパス」を開催しました。

http://www.kio.ac.jp/topics_news/26044/

TASK（健康支援学生チーム）活動レポート vol.17～シニアキャンパス（認知症カフェ）

<http://www.kio.ac.jp/information/2015/12/8-28.html>

TASK（健康支援学生チーム）活動レポート vol.18～ロコモ予防 in シニアキャンパス！

<http://www.kio.ac.jp/information/2015/12/18-24.html>